

おコメと水(ペット)を

お寄せください



3月13日、北川まち子前羽咋市議の紹介で、センターの望月(左端)、竹井(右端)両スタッフが、社会福祉施設運営の合同会社「愛笑(あわら)」(写真)を訪問。同社は輪島市門前町の介護施設などを独自に支援しており、センターが物資の提供を申し出ると、施設長(左から2人目)と職員(同3人目)さんが喜んで歓迎してくれました。

施設長によると、現地はでコーヒーやお茶、お菓子などの嗜好品が後回しになっており、水が出ないことからトイレの凝固剤なども必要とのこと。今後、連携を強めることになりました。

このほか、「柳橋こども食堂」のスタッフ3人がセンターを訪れ、おコメ10キロなどを提供しました。

避難者のみなさんに「共同支援センター」の存在が知られるにつれ、能登半島の町会長・区長さんたちから、「おコメと水を届けてもらえないか」との依頼が急増、子ども食堂やボランティア NPO からの問い合わせも増えています。

センターの窮状を見かねた全国農民連は11日、関東ブロックに緊急要請し、千葉県など各地のみなさんがトラック2台で緊急にセンターを訪れ、白米330キロなどを届けていただきました。しかし、それでもニーズは強く、わずか3日余りで、底をつきつつあります。全国のみなさんに訴えます。

奥能登は、まだ多くの地域で上下水道が復旧しておらず、命をつなぐための水が必要です。また、電気炊飯器でごはんを炊くには、水とともに、おコメが必要です。

壊れた自宅で、なんとか生きながらえるための、おコメと水のご支援を心からよびかけます。

3月13日、能登半島地震被災者共同支援センター
スタッフ一同

全国農民連が緊急支援

おコメや水などの支援物資が不足していると聞いた全国農民連は11日、富山県連の水越副会長(左から3人目)のよびかけにこたえ、千葉など関東ブロックから炊き出し用野菜などを満載し、トラック2台でセンターに到着。おコメ330キロなどを届けてくれました。

農民連はセンターに一泊したあと、珠洲や輪島の炊き出し拠点にも物資を届け、各地で大歓迎をうけています。

